

書名	神武と徐福		著者名	松本司／著			
出版社	星雲社	ISBN	978-4-434-30967-0	本体価格	¥1,400	発売	2022/10/5
内容	徐福は、なぜ、東方の蓬莱山に向かったのか。神武天皇は、なぜ、東方のヤマトに向かったのか。「天孫降臨」や「神武東征」神話に不自然な展開があり、天孫降臨ではアマテラスの子である天忍穗耳命から、急に、赤ちゃんだった邇邇藝命に交代し、神武東征では、東方に行こうといいながら、なぜか逆方向の関門海峡を通り日本海側に立ち寄っている。奈良の纏向遺跡は、はたして『記紀』に記された纏向珠城宮や、纏向日代宮だったのか。本書は、当時の日本列島の自然条件や考古学的事実、さらに大陸の情勢を踏まえ、徐福一行の渡来の実現可能性を考察した上で、二つの仮説をたてることで、これら疑問をときあかしている。						

書名	悲劇の宰相 安倍晋三——清和会の血脈		著者名	秋山光人／著			
出版社	日経BPマーケティング	ISBN	978-4-296-11549-5	本体価格	¥1,800	発売	2022/10/7
内容	安倍晋三元総理が7月9日、参院選遊説先の奈良県大和西大寺駅前で銃撃され、死去した。二期通算8年8ヶ月の歴代首相の最長記録を残した安倍元総理は、「強い日本を取り戻そう」と経済や外交・安全保障政策で一時代を画し、国際的に評価された希有の政治家であった。2021年11月に、今や100人近くの議員を抱える自民党最大派閥「清和会」の第10代会長に就任。安倍氏の死去で岸田政権を支える党内基盤に変化の兆しも表れている。誰が清和会を引き継ぐのか、内部抗争で分裂するのか、永田町や霞ヶ関の関係者は目をこらしている。						

書名	正倉院宝物を10倍楽しむ		著者名	山本 忠尚／著			
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-08418-5	本体価格	¥2,700	発売	2022/10/22
内容	1300年の時を超え、天皇家と東大寺により守られてきた正倉院宝物。聖武天皇ゆかりの品、異国風の工芸、シルクロードや唐からもたらされた文物まで、その内容は多彩である。メッキや代用の技法、天馬や麒麟といった架空動物の意匠、象牙や翡翠などの素材から、めくるめく天平の美術を解説。古代の造形の粋をあつめた豊穡な世界へといざなう。						

書名	なぞりがき 万葉集—いにしへの草花の歌—		著者名	鈴木 啓水／著			
出版社	自由国民社	ISBN	978-4-426-61457-7	本体価格	¥1,200	発売	2022/10/24
内容	楽しくなぞって字がうまくなり、教養も深められる人気の書き込み式シリーズ最新刊です。本書は、およそ4500首ある万葉集の歌の中から、ハギやウメ、ナデシコなど、花や草木を詠んだ歌67首を厳選。歌の解説つきで、美しい字の書き方を学ぶことができます。見開き2ページで1首ずつ、ボールペンや鉛筆といったふだん使い慣れた筆記具で気軽にレッスン。美しいお手本字は鈴木啓水先生による楷書体ですから、学んだ字をすぐ毎日の生活で活かすことができます。						

書名	教養としての日本古典文学史			著者名	村尾誠一／著		
出版社	笠間書院	ISBN	978-4-305-70971-4	本体価格	¥1,900	発売	2022/10/25
内容	万葉の時代から多様な表現を育ててきた和歌、平安王朝で花開いた物語、近世にかけて洗練された俳諧……。日本文化を豊かにしてきた古典文学の歴史を、時代ごとのポイントと全体の流れに着目してわかりやすく解説します。世紀ごとに章を立て、全体を見わたす概観と、文学史・日本語史・文化史の上で重要で興味深い箇所を一步踏み込んで解説するトピックからなります。						

書名	いつか旅してみたい世界の美しい古都			著者名	編集:地球の歩き方編集室／著		
出版社	Gakken	ISBN	978-4-05-801816-3	本体価格	¥1,800	発売	2022/10/27
内容	いにしへの伝統と文化が今も息づく世界の古都を集めた旅の図鑑。町の歴史や見どころ、名物、雑学など情報満載。本書には、世界119の国と地域より、218の歴史が香る古都をエリア別に紹介しています。首都や大都市については、同じ旅の図鑑シリーズの『世界246の首都と主要都市 199の首都と47の主要都市を旅の雑学とともに解説』に掲載しているので、ぜひ合わせてお読みください。						

書名	読み解き古典 まんがでわかる百人一首			著者名	谷 知子／著		
出版社	日本文芸社	ISBN	978-4-537-22042-1	本体価格	¥1,300	発売	2022/10/28
内容	かわいくて引き込まれるマンガ、イラストとわかりやすいテキスト解説(読み仮名つき)で、歌の意味・背景・言葉・覚え方がみるみるつかめる1冊です。古い表現が使われていても31文字の歌に凝縮された言葉と想いに触れることで、作文力が高まり、想像力が磨かれます。100人の作者がもつ100の世界へいっしょに飛び込んでみましょう。						

書名	馬姫様と鹿王子 3巻			著者名	梶下 聖海／著		
出版社	少年画報社	ISBN	978-4-7859-7261-5	本体価格	¥990	発売	2022/10/28
内容	憧れの先生にふさわしくなるため、奈良の大学で仏像を学ぶことになったまほろ。「春日山大学の王子」と春鹿の所業で崩壊した仏像サークルを復活させる。その最中で「王子」=春鹿が神鹿の化身であることを知る。春鹿は何か使命をおびて人間界に来させられたようだが人があまり好きではないようで…!?						